

ポイントを押さえて、災害に備えましょう

台風や集中豪雨から身を守る

円山川の下流に位置する豊岡盆地周辺は緩やかな勾配のため、氾濫が非常に起きやすい地形です。また、近年、これまでにない規模の豪雨が、各地に甚大な被害をもたらしています。被害を最小限に抑えるため「自分たちの命は自分たちで守る」という心構えと、日ごろからの準備、そして家庭や地域での連携と助け合いをお願いします。

《問合せ》防災課 ☎ 23-11111

ポイント1 早めの避難・多様な避難先の確保

『避難』とは災害リスクから命を守る行動です。まずは、行政区別防災マップを確認してください。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。『避難先』は指定緊急避難場所だけではなく、安全な親戚・知人宅などさまざまな避難先があります。普段からどこに避難するか決めておきましょう。豪雨時の屋外避難は危険です。車での移動も控えましょう。

避難のタイミング 〔緊急時の対応〕

災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、5段階の警戒レベルで「避難のタイミング」をお伝えします。

警戒レベルは、災害発生の危険度が高くなるほど数字が大きくなります。



警戒レベル3で危険な場所にいる高齢者などは避難！
警戒レベル4で危険な場所にいる人は全員避難！



避難情報等	早期注意情報 (気象庁が発表)	大雨注意報など (気象庁が発表)	避難準備・高齢者等避難開始 (市が発令)	避難指示(緊急)避難勧告 (市が発令)
	取るべき行動	心構えを高める	避難行動の確認	避難に時間を要する人は避難

警戒レベル5【最大】
既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとる

避難場所における新型コロナウイルス感染症対策

避難場所を開設する場合には、3密を避ける避難スペースの配置、十分な換気、消毒液の設置など、可能な限り新型コロナウイルス対策や衛生環境の確保に努めます。

避難する場合は、事前に検温などの健康チェックを行い、避難場所ではマスクの着用をお願いします。

また、避難場所の備蓄品には限りがあります。水や食料に加え、自分の健康や感染防止対策として必要なものは必ず持参してください。

▼多様な避難先の検討

○安全な自宅や親戚・友人・ご近所宅などへの避難、安全な場所での車中泊(短時間)について検討

▼避難場所で注意すべきこと

- 手洗い、咳エチケットを徹底する
- 体調に不安があるときは、早めに避難場所にいる職員に相談する
- マスク、体温計、アルコール除菌ウェットティッシュなどの感染症予防に必要な物を非常用持ち出し袋に入れ、避難先に持参する

※掲載している情報は編集時点(6月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。

避難行動を確認(平時に確認)

防災マップを参考に「避難行動判定フロー」を確認し、避難場所はどこなのか等について、あらかじめ確認・認識しましょう。防災マップは市内359の自治会ごとに作成しています。2018年に全市に配布したほか、市ホームページで「防災マップ」と検索すれば入手できます。

《避難行動判定フロー》

スタート

防災マップで自分の家がどこにあるか確認し、印を付けてみましょう

家がある場所に色が塗られていますか？

市が推奨する避難行動
防災マップでは、災害の危険性に応じ、土砂災害警戒区域、家屋倒壊危険区域、浸水の深さなどに分けて、それぞれ推奨する避難行動を設定しています。自宅周辺を確認して、安全に避難できる場所を探しましょう

色が塗られていなくても、周りと比較して低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

警戒レベル③が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)


警戒レベル③が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

警戒レベル④が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル④が出たら、市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
いいえ



○防災マップであなたの自宅はどの地域？推奨される避難行動は？

区域	あなたの避難行動
浸水深0.5m未満の区域	自宅にとどまる
浸水深0.5m～3m未満の区域	2階があれば自宅2階にとどまる
浸水深3m～5m未満の区域	3階があれば自宅3階にとどまる
浸水深5m以上の区域、土砂災害警戒区域、家屋倒壊危険区域	区域外への早めの避難

▼家屋倒壊危険区域でなくても、堤防の近くに住んでいる人は早めの避難を行う▽区域外へ避難の方は「安全な親戚や知人宅」や「市の指定緊急避難場所」などへ避難する▽避難が遅れた場合は、屋外移動をあきらめて自宅の2階以上(崖から離れた部屋)で命を守る

ポイント2 備える

防災情報を確認

市内の気象や雨量、河川の水位、その他必要な防災情報を自ら進んで入手しましょう。

○「テレビ・ラジオ」 台風の進路予測、気象予報・警報など。テレビのデータ放送が便利です(リモコンのdボタン)。

○「防災行政無線放送」 台風や市内の河川の水位情報、避難勧告等の情報などをお知らせします。聴覚障害のある方には、ファクスで放送内容をお知らせします(要申込み)。

○「ひょうご防災ネット(アプリ版)」 県と県内の市町村から「避難に関する情報」など防災に関する情報をプッシュ通知します。

【ダウンロード方法】

①下記二次元バーコードを読み取ってダウンロードしてください。または[App Store]や[Google Play]の「ひょうご防災」を検索してください。

Google Play 

App Store 

②アプリを起動し、言語や

市・町等の設定をしてください。

○「とよおか防災ネット」登録すると、避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告、避難指示(緊急)などの防災情報メールが携帯電話へ配信されます。

【登録方法】toyooka@bosai.net宛てに空メールを送信してください。または、左記二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。空メールを送ると、まもなく返信メールが届きます。



非常持ち出し品・備蓄品を準備

○非常用持ち出し品 リュックサックなどに入れる。非常食/飲料水/FM・AMラジオ/懐中電灯/下着・着替え/携帯用トイレ/服用薬/マスク/体温計など

○備蓄品 最低3日分
飲料水…人が1日に必要な水の量は3リットル。風呂に水をためる方法も有効。食料…乾パンや缶詰などの保存食。

*掲載している情報は編集時点(6月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。